

第 48 回全国学童保育指導員学校・西日本・愛知会場（20230604）レポート

【クラブ】（ なかよしクラブ ）

【名 前】（ 吉川 美里 ）

① 午後に参加した講座のタイトルをお書きください。

（ 特別 ）講座（No 11 ）（ 学童保育と性教育 ）

② この講座を選んだ理由をお書きください。

このテーマは時代と共に大きく変化し、ずっと奥深いと感じてきたことでした。ちょうど全体講演のテーマでもあり、その講師が引き続きの内容で講座を行うということで、深く学べたらと思い選択しました。

③本日の講座で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

まずはセクシュアルマイノリティに関して、圧倒的な日本の性教育の遅れを感じました。このことが、子どもたちにとって大きな影響をもたらしていると言えます。自衛のための教育となり、“大切な知識がないことで、いつの間にか加害者にも被害者にもなっていることがある”という言葉が非常に印象的でした。同意がない 10 代の子の性被害の事例がありました。被害者はせつかく講師に相談出来たのにも関わらず、その先の相談出来る機関の『他人事のような対応の悪さ』に驚き 残念でなりません。10 代の子の被害は、表に出ている数だけでも想像以上に多かったです。怖いのは、加害者の多くが“知人”であるということです。これはしっかり頭に入れておくべき重要ポイントだと思いました。

他の地域の指導員から数多くの悩みや質問がありました。単純明確な答えがある問題ではないですが、子どもたちを大切に思い、みんな日々手探りで悩みながら頑張っていることが伝わってきました。デリケートな分野ですが、パーソナルスペースを侵害しないことや、いけないことはいけないとはっきり伝えること。（指導員も何をされても我慢しなくてはいけないのではなく）そして指導員に言いやすい環境作りをしていこうと思いました。

性教育に関しては、指導要領の問題があり、学校は踏み込むのが難しい現状。しかしその殻を破って、外部の人と協力しながら分かりやすく子どもたちに性教育（授業）している中学校の先生のドキュメンタリー番組を見たことがあります。まさしくこの分科会の内容であり、今からの時代は子どもたちを守るために教育者が積極的に立ち向かっていくべきだと思いました。

相手の気持ちになって考えられるよう、頭の柔らかい幼少期から“知る事”によって寛容になり、より良い社会に繋がっていくと思いました。学校でも家庭でもない第二の家としての学童保育所。学童ではどんなことが出来るか、決めつけや偏見を持たず、子どもたちと向き合っていこうと思います。性の多様性を柔軟に受け入れられ、世の中全体が理解していく必要があります、そのために決めつけや偏見のない社会、環境が大切だと感じました。